

確認申請書作成支援ソフトSPICA（スピカ） Ver. 1.1.0 リリースのお知らせ

確認申請書作成支援ソフトSPICA〔スピカ〕Ver1.0.6からVer1.1.0への主なプログラム改修項目は以下の通りです

1.県内の行政庁導入システム移行に伴い、FD申請データ形式を変更しました

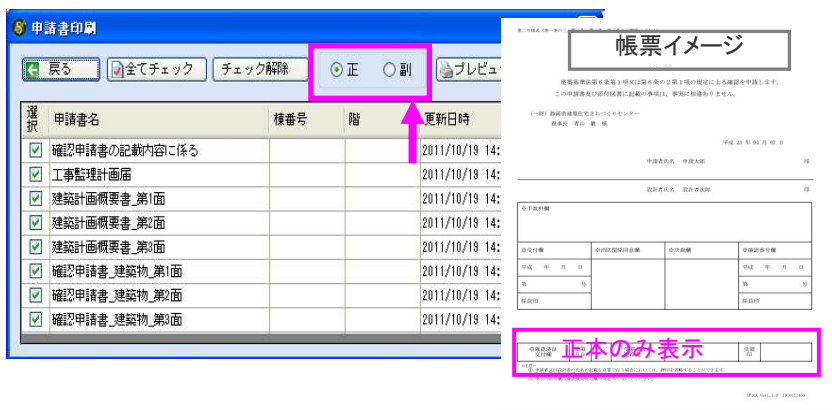
県内の行政庁が新確認申請台帳管理システム「台帳・帳簿登録閲覧システム（検索くん）」へ移行された為スピカからのFD申請用データも、新システム対応としました。

※行政庁の新システムは、入力可能文字数がスピカより少ない項目がありますので、該当項目に関しては、FD出力の際に自動調整を行います。（当センター用のFD作成には変更ありません）

⇒自動調整(文字カット)項目について 詳しくは下記URL をご覧ください

http://www.shizuoka-kim.or.jp/cms_contents/files/files00000474190.pdf

2.確認申請書（計画変更含む）の第一面に正・副 印刷分け機能を追加しました



確認申請（計画変更含む）の印刷時に正・副の制御ボタンを表示し、印刷分け出来るようになりました。

これにより、正本の第一面にのみ受領欄が表示されます。（副本には表示されません）

確認申請〔建築物・工作物・昇降機〕の第一面が印刷選択されている場合に正・副の選択ボックスが表示されます

3.工事監理計画届、検査申請書第四面 工事監理の状況の入力方法を変更しました



出力される帳票と同様、表に直接文字入力出来る形式に変更しました。

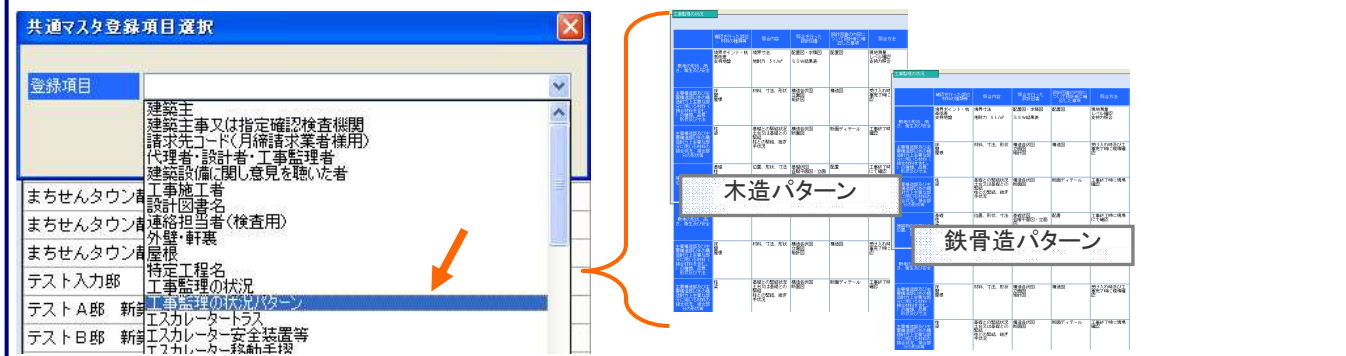
新たに[パターンマスタを選択]を追加、監理項目(9項目+備考)の10項目全てを一つのパターンとして共通マスタから呼び出すことが出来ます。

今までは項目毎に共通マスタを呼び出す必要がありましたが、今後はパターン登録すれば一度で全項目を呼び出すことが出来ます ※共通マスタ管理にて事前登録必要

既に登録済の共通マスタの内容は、今まで通り、項目毎ご活用頂けます。

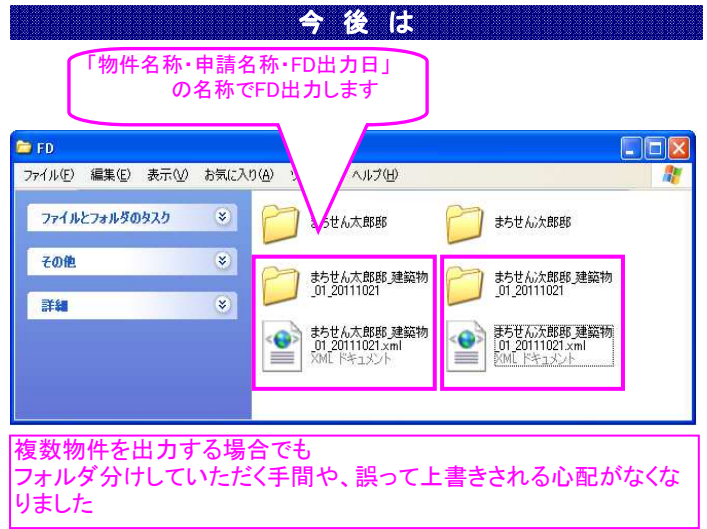
パターンマスタの事前登録

共通マスタ管理メニューの「工事監理状況パターン」から、工事監理計画届・検査申請書第四面の監理項目（9項目+備考）を1つのパターンとして登録できます

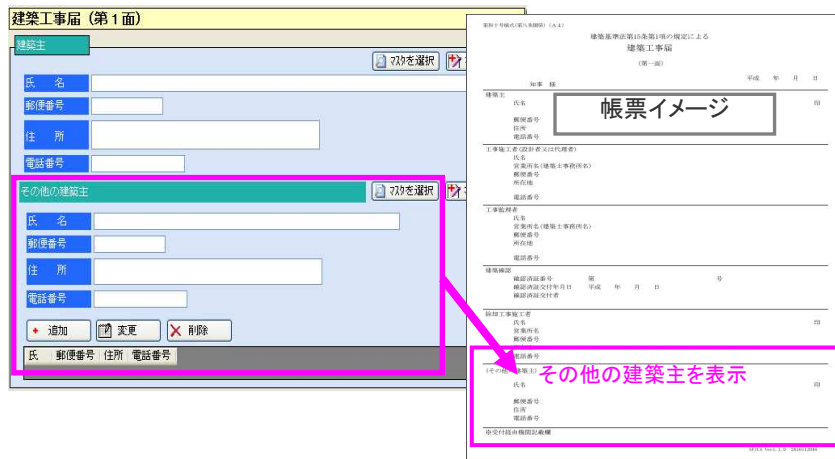


4. F D申請用の吐出し名称を変更し、複数物件を保存した際に誤って上書きされなくなりました

U S Bメモリ等の大容量メディアに複数物件の申請データを作成した際、フォルダを分けないと申請データが上書きされてしまいましたが、物件名・申請書名・FD出力日の名称で申請データを作成するよう変更しましたので、異なる物件の申請であれば、フォルダ分けしなくても、上書きされることはなくなりました。（物件名・申請書名・FD出力日が同じものは上書きされますのでご注意ください）



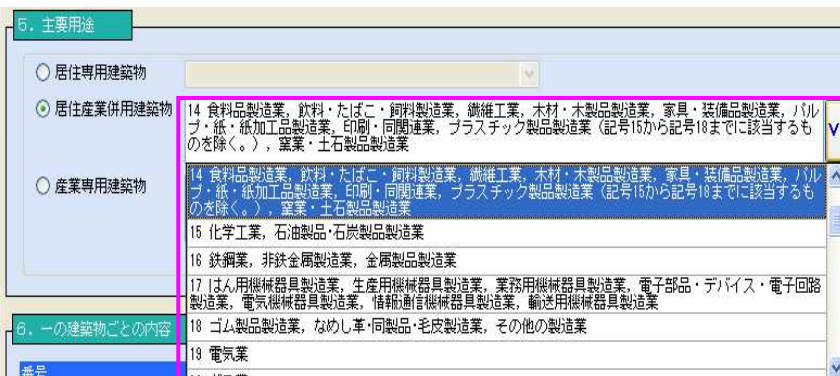
5.建築工事届にその他の建築主を追加入力できるように変更しました



建築工事届に、「その他の建築主」の項目を追加しました。

これにより、現住所の異なる複数の建築主の表記ができるようになりました。

6.建築工事届（第二面・第四面）の主要用途の選択肢の表示方法を変更しました



建築工事届の第二面及び第四面において、主要用途の長い項目は省略して表示しておりましたが、全ての内容を表示し選択しやすくなりました。